

b-B O Y

キチク

K I C H I K U

オール
読みきり

新田祐克
ヤマシタトモコ

西野花
(画・佳門サエコ)

環レン

魚ともみ

一城れもん

小池マルミ

鮎屋カナメ

七瀬かい

千歳びよこ

鳥海よう子

紙井メモ

「……こんなはしたない姿
見ないでください……っ！」

おもらし

特集

C O N T E N T S

おもらし特集

小池マルミ	恥辱連鎖	1
環レン	島の医師と商店主	37
一城れもん	この恋どっち?	53
鳥海よう子	シークレットドッグショー	77
魚ともみ	いつも2人一緒にね? 利則編	101
飴屋カナメ	プライドと欲動	129
七瀬かい	しまっておきたい。	163
千歳びよこ	受りたい部長	179
紙井メモ	シークレット・パパラッチ	211
西野花(画・佳門サエコ)	ソムサン~総務部三課の駆け引き~	227
ヤマシタトモコ	chain gang	243
新田祐克	ハレムローズ	251
次号予告		283
ライターズコメント		285

表紙.....佳門サエコ

装丁 橋本清香 (NARTI:S)
レイアウト CoCo.Design 柴崎結佳 鈴木哲也
NARTI:S リブレ出版デザイン室

本作品は紙版刊行物を電子書籍化したもの(デジタル版)であり、掲載されている情報は紙版出版時点のものです。
なおデジタル版は一部紙版と異なる仕様がございます。

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件等とは一切関係ありません。

本書の一部、あるいは全部を無断で複製複写(コピー、スキャン、デジタル化等)、転載、上演、放送することは法律で特に規定されている場合を除き、著作権者・出版社の権利の侵害となるため、禁止します。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内で利用する場合であっても一切認められておりません。

b-BOY
キキク
K I C H I K U

b-BOY
キチク
K I C H I K U

ここには
私とあなたの
二人きりなのに

何を抗議
出来るんですか？

私が何を
しようが

誰にも
わからない

あなたお得意の
腕力だって
拘束されたら
使えないでしょう

…やっぱり
お前

俺に過去の恨みを
はらすために
こんな事を…

恨んでなんか
いませんよ

逆に感謝してる
くらいです

キキ

あなたの言うとおり
勉強しての方が
私には向いていた
ようです

お陰で今は
あなたより
上の階級だ

フニ


コウ
ク

ややめろッ!

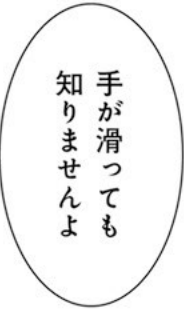
ハラ

フニ

コウク



あなたでも
怯える事が
あるんですね




動かないで
ください

手が滑っても
知りませんよ



…ッ！



や…やめろッ！

b-BOY
キ子夕
K I S H I K U

僕が生まれ育った
この小さな離島で
「数規医院」が50年以上ぶりに
再開業した

今までは本島からの
巡回診療しかなかったから
高齢者が多いこの島にとっては
嬉しい出来事だ

その数規医院は
僕が営んでいる
「実和商店」の
隣なんだ——

のどかな離島で恋は生まれた！

島の医師と商店主

WREN TAMAQUIS
環レン

環レンの最新ビーボーイコミックス

「二人のマハラジャ」 傲慢な三人の魔王×
日本人青年の官能的な恋!!



カラカラ

東京育ちの先生にとって
この島の生活は
不便だと思っけと



——お弁当に
食パン・ビール
漬物

レタス・トマトと
きゅうり：
魚は——下田の
おばあちゃんちで
貰うんだっとな

院長の数規達彦は
初代院長のお孫さんだ







b-BOY
キキク
K I C H I K U

b-BOY
キ子夕
K I S H I K U



僕の七海くんを
酔わせて
エロいこと強要しようと
思ってたんでしょ

やめて下さい
僕の可愛い七海くんが
汚れますっ

七海は俺と
飲んでんだよ!!

何勝手に
自分のモンに
してんだよ!

えー!!
あなたみたいな
サイテーおっさんと?
何かの間違いでしょ?

んだと!?



やだやだ勘違い
おじさんは
これだから

ぼー!

理人さん
何でござ?

ギョー
ギョー

あ...あのー

何ですか?
七海くん!
止めてもムダですよ

そうだ!!
今日こそ
どっちか

はつきりさせて
もらわねえと!

あれ...

七海ピツン

俺だよな…

僕ですよね？



おい

理人さん



あ~~~~
翔さん



かつこよくみえますう

なんだか
二人とも



七海？

どうした？



何だよッ
急に……!

へえ——

ねえ七海くん
そう思ってるなら
今日こそどっちがいいか
決めてもらいましょうか



!



彼を自由に
出来る権利を
頂くっていうのは

どっちか
勝負に
勝った方が……



面白そうだな

では兄さん



こいつを先に
イカせた方が勝ちだな

そうだな

じゃあ



……

b-BOY
キチク
K I C H I K U



続いて…

コイシ…シ

終わるのを
待つしかないッ

映像は
以上です

院長の
見解を
聞かせて下さい

我々医師の
影響力は
偉大だ

グ
グ

キ
キ

…タメだ

もう

食いしばってねえと
我慢がきかねえ

少しの刺激でも
ヤバイ



b-BOY
キ子夕
K I C H I K U

辞めてやるう~~~~~

……

オレが
ディーラー営業に
なってるの2年

仕事にも慣れて

げっ

もう11時……

固定客も
付いてきたけど……

着がえ……

ミュル……

……面倒くさ……

少し
疲れてきた

朝から晩まで

毎日
あちこち回って

時には客からの
呼びだしに

夜中に対応
する事も
ある



ほっ

白馬の王子様やアラブの石油王なんかが

オレの事
かつさらってくれないかな
……



早く帰れた日かえ

会社の付き合いで
ゆっくりする時間は
ほとんどない……



なんつー女子的な
考えを……

疲れてるのよな



ウチに来る奴なんて
決まってるけどな……

ガチャ

こんな時間に
来るなよ

……

誰だよ
こんな夜更けに……

……



和則とは職業訓練校
からの友人だ

…別にいいけど…

まるで絵本の中から
出てきた
白馬の王子様みたい…

アイドルみたいに
格好よくて品があつて



和則!!

すみません…
未緒さん



それから色々あつて
とりあえずは
今の関係を保つておきたい

来るならメールくらい
よこせよ



—と油断したら
あつという間に押し倒されて
レイプされてしまった事が…!!

人間
顔で判断すると
ひどい目にあつ…。

b-BOY
キ子夕
K I C H I K U

新入りのクセに
やたら肝が座ってて

——妙だとは
思っていたんだ

なあ

いつまで黙ってる
つもりだ？

...

プライドと欲動

飴屋カナメ

プライドと欲動よくだう

この男には関わるべきじゃなかった——って
気づいた時は、もう手遅れ。

刑事さん

あめりか
飴屋カナメ

BBC「君のおいしい愛し方」now on sale!



菊田 京介

この一帯を締めてる
鬼怒川組の若頭だ



…はい

これは…
命がけになり
そうだな…



先日西埠頭倉庫で
薬物売買をした
嫌疑がかけられ
ている

池野

お前にはこの組に
潜入して貰いたい



新入りの
洗礼か…

お前には皆
期待しているぞ！

が、
頑張ります

二の課で
一番若い
お前なんだ

——さうだ
ここで結果を
残せば

俺は一人前の刑事
として認められる

絶対に
しくじれない

…なのに

最悪の
状況だ…

—で？

何を調べに
潜り込んだの

カク

b-BOY
キキク
K I C H I K U

b-BOY
キ子夕
K I S H I K U

「しまっておきたい。」七瀬かい

しまっておきたい。

七瀬かい

SBBC「湯あたりしそうな恋だから」
「第2次面接」絶賛発売中!

言葉はいらない。
むしろ先生の鳴き声が聞きたい。





ん？

ん！

え

な
何だ——！？

どうした
これっ



この天井は
うちじゃない…

どこだよ
ここ

夕べは学校の同僚と
飲んで盛り上って

やは：
2軒目途中から
記憶がねえよ

学生じゃ
あるまいし
情けねえなあ

割と冷静
なんだな

普通はもっと
慌てふためくと
思うけど



1/10



流石だね

沢木諒司
先生

気分はどう？



お前…

犬飼いぬかひっ!! 何だ
この報告書は

間違
いだらけじゃ
ないかっ

やりなおし!!

はい…
玉木部長
すみません

また
怒られたのかー

うん…でも
しょうがないよ

ま 玉木部長は
厳しいけど
仕事めちやくちや
できるもんなー





ええっ!?

別れてきたって…
も…もう?

その前も
3日くらいで…

まったくの
見込み違いだ



やっぱり女は
ダメだな

何かあったの?



オレは

ホテルに連れ込まれた
から少しは骨のあるヤツ
だと思ったのに

マグロみたいに
動かなくなり
やがって

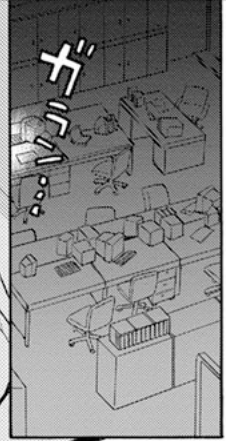
攻められたい
のにつ!!



b-BOY
キチク
K I C H I K U

b-BOY
キ子夕
K I S H I K U

夜のオフィス、会社のトイレで漏らしちゃー...!!
ガマンできないくらい気持ちイッ!!



シークレット・パパラッチ

紙井メモ



俺は今日も
社内泊かねー

会社の連中は
忘年会...



...課長!?

ん...
冴島...?





どうして
戻ってき...

うわ!!?

#!
=

かちよー...
起きて下さいよ

ここ家じゃ
ないっスよー

.....



んあ!...

もう
しゅうれん
ないから...

きまうは
これ
とまるよ...

ダメだ
酔っばらってるわ
この人...



燐堂圭は、カイゼル・コーポレーションの新入社員で総務部三課、通称ソムサンに配属された。

ソムサンは、社内の慰安と褒賞を主な目的とする部署であり、その仕事はセックスだ。

ソムサンへの配属を打診された時、圭はラッキーだと思つた。ここはその業務内容からか、なんとと言っても給与がいい。男と寝るのには抵抗がなかったし、気持ちいい思いをして高給が取れるのならこれ以上の仕事はない。

業務で初めて社員と寝たときも、少し緊張はしたがうまくできたと思う。まず自分が楽しまなくては、人を悦ばせる事などできない。普段は一般の社員としてビジネスネームを持ち変装して過ごしているのも、なんだかスパイごっこみたいで楽しかった。

そして圭は今、仕事の打ち合わせのためにバーの個室で上司を待っていた。

これまで業務連絡はメールがほとんどでたまに電話という形だったので、対面の打ち合わせというのは珍しい。

その時個室のドアが開いて、直接の上司である逢坂環が姿を現した。カイゼルの社長令息にして総務部三課の統括。理想的で華のある美貌は、そこにいるだけで周りを蕩けさせるような印象を受ける。

「燐堂君、ご苦労様」

「お疲れさまです」

圭は一度立ち上がって礼をし、逢坂が座ってから自分も再び腰を落ち着けた。

「——ソムサンの業務はどう？ 慣れた？」

プリーフェケースの中から取り出したファイルをテーブルの上に置いて、逢坂はそんなふうには話を切り出す。

「はい。すっかり」

「嫌な思いとかはしてない？」

「全然です。うちの社員はみんな優しいし」

さほど変態的なブレイを要求される事もなく、これまで相手をしてきた社員はみんな紳士的に圭を抱いた。

実は、圭は学生時代それなりにはめを外すこともあって、ライトなSMくらいならどうって事はない。肉体的にはMの方だと思うが、精神的に屈辱を味わわれるような目に遭わされた事は今まで一度もなかった。

多分、この怖いものしらずの性格とか、気の強そうな容姿がそうさせるのだろうが、男はいつも圭を、まるでお姫様か女王様のように扱ってくれる。

今、目の前にいる逢坂とは多少タイプが違うが、圭は自分のルックスに自信を持っていた。白い肌到人形のような整った顔。特に猫のような大きめの瞳が魅力的だと何度言われたことだろう。

「そうか——……」

逢坂は長い睫を思案気味に伏せる。

「あの、何か問題でも？」

「いや、君にひとつ案件があるんだが、多少厄介でね」

逢坂はそう言うと言つてファイルを開いて、圭の前に滑らせてきた。手に取り、中の書類を見ると、おそらく今度の仕事の相手であろう男の顔写真と簡単なプロフィールなどが記載されている。だが所属の欄には部署名ではなく、「甲斐谷物産」と書いてあった。

「社外の仕事……ですか……？」

「その通りだ」

ソムサンの業務は社内の人間相手が多いが、社外の仕事もな
いわけではない。主に接待と――。

「――詫び、ですか？」

「ああ」

逢坂は物憂げな表情をして指先で細い顎を触る。

「営業部の連中がちよつと大きなミスをして、先方に多大な迷
惑をかけた。どうにか穏便にすませてもらつたが、こちらから
の誠意を見せた方がいいとなつてね」

「大きなミスって、何です」

「商品単価のケタを間違えた。それで広告まで作ってしまった
らしい」

「うわあ……」

想像するだけで怖くなつてきた。

「まあ、どうか先方の損失は免れたらしいが、向こうはえら
くお腹立ちだ」

「で、我々の出番ですか」

身体を張つてご機嫌取りをしろというわけだ。

「そうだ。頼めるか？ 君に」

「やる事は変わりませんし、別にいいですよ」

即答した圭をたしなめるように、少し苦い顔をした逢坂が促
す。

「特記事項をよく見たまえ」

逢坂の言葉に、圭は書類に目を落とす。

プロフィールの一番下。『特記』と書いてあるところに、『加

虐趣味あり』と記されていた。

「ああ、ドＳって事ですか」

「こちらの規定により、身体に傷をつけられる事はない。しか
し、もしかしたら嫌な思いをするかもしれない」

本当に厄介な案件なのか、と思つた矢先に逢坂の次の言葉が
響いた。

「ちなみにこの案件には特別手当がつく」

「ほんとですか！」

特別手当の響きに圭の目がきらりと輝く。

「え、じゃあ、自分が辞退した場合はどうなるんです？」

「私が行く」

「統括自らそんな仕事を」

「無理強いはできないからな」

逢坂が苦笑の表情を浮かべる。世の中部下に無茶振りをする
上司があふれている中で、この部署はなんて恵まれているのだ
ろうか。

「大丈夫です。俺できますよ」

「いいのか？」

「はい。多少無茶される事は慣れてるんで」

圭はべろりと舌を出す。ここに配属される前に、自分の性的
嗜好や経験などについては調べられているはずだ。

「――知つての通り、今は人手不足でね。すまない」

「あー、一人アラブの大富豪に見初められてリタイアしたと
か」

「リタイアというか、専属だな。だが、今後彼は現場には出せ
ない」

b-BOY
キチク
K I C H I K U



Chain gang

チェインギャング

※chain gang とは、互いに鎖でつながれている囚人を意味する俗語である

ヤマシタトモコ



あ……

ビール3瓶
ワイン4杯
ハイボール2杯

かな








……ならば
イスハーク

そなたの手で私を
穢けがしてくれっ
勝利者の慰なぐさみ者として
あるべき姿につ…!!



あっ!!

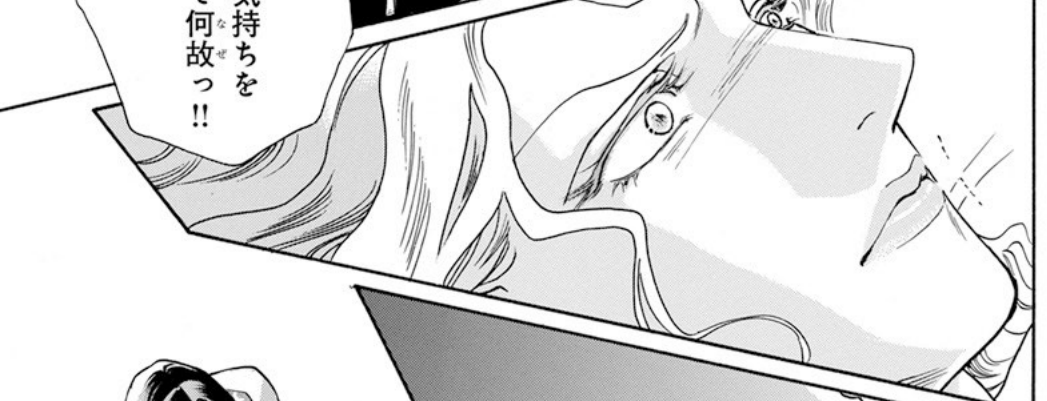





何故そんな事を
言う…!!
そなたの国の教えは
同性での交わりを
禁忌としている苦!!

なればこそ
そなたが国を忘れ
この国の者となる時を
待つと言ったのだ!

その気持ちを
知って何故っ!!



……顔向け
出来ぬのだ…



国は隷属を
強いられ…民は
どの様な苦しみの中に
あるか…私は知る事も
出来ない



憎い敵…

私一人 憎い敵の
庇護を受けて
温々と
過ごしては
顔向け出来ぬっ

——ずっと…
そう思っ
ていたのか…

当然か…



ならばせめて
望み通り
扱ってやろう…

b-BOY
キチク
K I C H I K U